

21世紀の

縄文人展

縄文人の感性に現代人はどこまで迫れるか
～今年も八ヶ岳南麓に、21世紀の縄文人たちが現れる～

2019. 7. 20 sat. → 8. 25 sun.

9:00 - 17:00 (入館は16:30まで)

月曜日、祝日の翌日休館

入場無料 ※常設展観覧の際は観覧料が必要です

縄文文化が花開いたここ八ヶ岳の麓。重厚かつ華やかな装飾の縄文土器。素朴な作りの土偶。洗練された機能美の石器。この地にいた縄文人の造形には驚かされます。現代、この地には多くの工芸作家が創作活動を行っています。かつての縄文人たちがこの大地から受けたさまざまなエネルギーを、現代の工芸作家たちも感じていることでしょう。八ヶ岳の縄文時代と現代を「ものづくり」を通じて結ぶ「21世紀の縄文人展」。縄文人の造形から感じたインスピレーションを、自身の作品に投影しています。

現代の工芸作家は、11年目を迎えた今夏も縄文人の感性に迫ります。

主催・問合せ：北杜市郷土資料館 ☎ 0551-32-6498

協力：八ヶ岳アート&クラフトネットワークおらんうーたん

会場：**北杜市考古資料館**

ギャラリートーク

8月18日(日) 14:00~15:00 <入場無料>
作家による解説に加えて学芸員が縄文的な考察で作品に迫ります。

金生遺跡ライブ「原始の記憶 Vol. 7」

～土の笛と世界の民族楽器による即興演奏～
8月17日(土) 16:00~17:00 <入場無料>
会場：金生遺跡(雨天時は北杜市考古資料館)

山梨県北杜市大泉町谷戸2414 ☎ 0551-20-5505
email yatojo-rekiskan@lagoon.ocn.ne.jp

縄文展 21世紀の

縄文人の感性に現代人はどこまで迫れるか
～今年も八ヶ岳南麓に、21世紀の縄文人たちが現れる～

7. 20(土) - 8. 25(日) 月曜日、祝日の翌日休館



9:00 - 17:00 (入館は16:30まで)
入場無料 ※常設展観覧の際は観覧料が必要です



上野 玄起

縄文をテーマに作品を作る事。
それは縄文人との対話の始まりであり自分の中
にある縄文を呼び起こす旅のようでもある。
どんな作品に辿り着くのか?期待しながら一步
踏み出す。



伊藤 桃子 / 彫陶遊工房

毎年夏、縄文人展に参加させていただき私自身
の成長と一万年もの平和な生活にタイムスリッ
プさせられる時を持たせてくださり感謝いたし
ます。
今年も縄文人の生活をテーマに製作してみまし
た。



伊藤 和智 / 石あるく

地元小淵沢生まれ。曾祖父の代から石屋を営
む。
人の心をつなぐお墓づくりをめざしている。
縄文人展では、太古に生まれた石の持つ霊性
を感じながら、八ヶ岳の地で循環する命を表現
したい。



高橋 正和 / 和窯

縄文の人々は月をどのように観ていたのでしょ
うか



アマラ 和(より) / 工房アマラ

縄文時代の声に耳を傾ければ、自然と人々の
調和、国とはなにか、おのずから解き明かさ
れるのではないのでしょうか。
岩や木々や風の隙間からわきあがるいにしえ
の声に耳を傾けながら、描き続けます。



吉野 剛広 / ペこり庵

一万年続いた、戦争のない平和な時代。人間の
本来の生き方ができていた、厳しくも豊かな
時代。直接経験したわけでもないのに、縄
文の時代に強烈な郷愁を感じます。八ヶ岳の
麓で、縄文人が見たのと同じ景色を見て暮ら
せる幸せをかみしめながら、この土地でしか
作れないものを作ろうと日々あがいています。



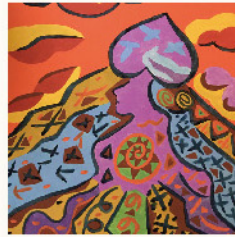
山本 明良

富士見町葛窪に石彫アトリエを設けて30数年が経ちます。東京
より中央道を経てくる道みちに縄文の遺跡が点在しているこの
地の豊穡な過去の歴史を彷彿とさせてくれます。縄文の持つ文
様や形態は西洋の文化の教育を受けた世代に何かアフリカの彫
刻に似た不思議な魅力を与えてくれます。言葉に立ち上げられ
ない奥深い魅力、また記憶のなかの懐かしさのような肌ざわり
を感じます。縄文土器の破片を使っでの試みをしてみました。



松田 広昭 / デザイン工房 昴(すばる)

「木目の風化?美」
縄文時代の素晴らしい土器群、たぶん「木」の加工品も創造力に
あふれた素晴らしい物があつたに違いない、「木」の物は腐敗して
ほとんど残っていないらしい、ただ、「木」の風化の途中を想像し
た時、木目がもしまし出す美しい姿は縄文時代と同じではないか
と思ひながら現代風に表現してみました。この美しさは私の創作で
はありませんが、自然が作り出した永遠の美です。
<http://www.design-subaru.com/>



なが山 房子

孫の誕生をきっかけに縄文土器作りが楽しみにな
り、八ヶ岳縄文を旅するようになる。古事記を訪ね
てはコノハナサクヤヒメ、イワナガヒメを描いてみ
る。わたしたちはみな炉の子なのだと思う。



宇々地(うーじ)

1993年「球体のカタチをして球体のオトを奏でる
土の笛」というインスピレーションを受け、土の
笛が誕生。2009年より北杜市に拠点を構え活動を
展開。魂の記憶をたどり古代縄文の音と対話を続
ける。2012年より縄文人展に参加。インスタレ
ーション作品と金生遺跡での奉納演奏を行なう。
子供たちの為の「八ヶ岳まあるい学校」を主催。

関連イベント

ギャラリートーク

8月18日(日) 14:00~15:00 (入場無料)

金生遺跡ライブ「原始の記憶 Vol. 7」

～土の笛と世界の民族楽器による即興演奏～

8月17日(土) 16:00~17:00

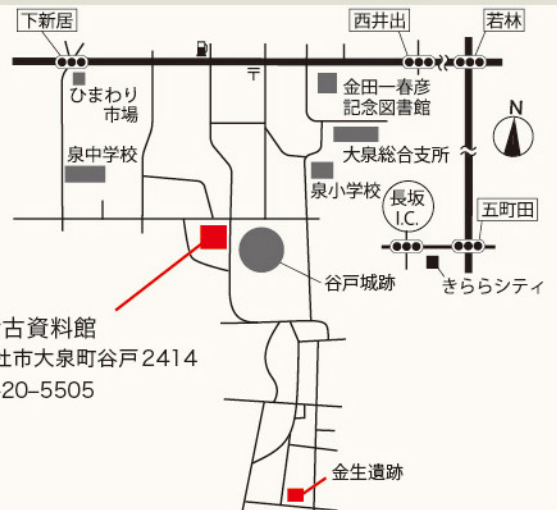
会場: 金生遺跡 (入場無料)

(雨天の場合は北杜市考古資料館)

宇々地 く土の笛・聲・波紋音・シャーマニックドラム・他>
谷山 明人 <パラフォン・縄文鼓・ジュンジュン・他>
サトウ "kuma-chang" ケイゴ <ンゴニ・パーカッション・他>
多麻美 <イダキ・ディジュリドゥ・他>
[音響] Amana Sound



MAP



会場
北杜市考古資料館
山梨県北杜市大泉町谷戸2414
☎ 0551-20-5505

主催・問合せ: 北杜市郷土資料館 ☎ 0551-32-6498 FAX: 0551-32-6497
協力: 八ヶ岳アート&クラフトネットワークおらんうーたん
発行: 北杜市郷土資料館